

認知症患者の義歯診療ガイドライン (抜粋)

CQ#1 認知症患者において、義歯の使用が可能かどうかを判断する要因は何か?

対象認知症レベル 重度・終末期  
 推奨文 重度以上の認知症患者では義歯に対する認識、意思の疎通、ADLを参考に、義歯を使用する利点とリスク、義歯の管理や着脱の介助に関する介護環境を考慮し、総合的に判断する必要がある。  
 推奨の強さ 強く推奨

CQ#2 認知症患者において、義歯の修理・調整は、新義歯製作よりも有効か?

対象認知症レベル 中等度・重度  
 推奨文 中等度以上の認知症患者においては、使用率の点からは義歯修理・調整の方が新義歯製作よりも有利であると考えられ、やむを得ず新義歯製作する場合には現義歯の欠点を補いその特徴を可及的に変えない設計を考慮する。  
 推奨の強さ 強く推奨

CQ#3 認知症患者において、義歯安定剤の使用は、リライン・新義歯製作よりも有効か?

対象認知症レベル 軽度・中等度・重度  
 推奨文 義歯不適合の症例で、リラインや新義歯製作による対応が困難な場合、日常的な口腔と義歯の衛生管理が可能であることを条件に、代替手段として義歯安定剤の使用を考慮する。  
 推奨の強さ 弱く推奨

CQ#4 認知症患者の義歯設計に際し、家族等の介護力を考慮すべきか?

対象認知症レベル 軽度・中等度・重度  
 推奨文 認知症患者の義歯設計に際し、義歯の着脱性や清掃性については、家族や介護職等の介護力を考慮することが推奨される。  
 推奨の強さ 弱く推奨

CQ#5 認知症患者において、義歯の設計は機能性よりも着脱性の方を優先すべきか?

対象認知症レベル 重度  
 推奨文 重度認知症患者においては機能性よりも着脱性の方を優先することを考慮してもよい。  
 推奨の強さ 弱く推奨

CQ#6 認知症患者において、義歯の衛生管理は本人よりも介護者に委ねるべきか?

対象認知症レベル MCI・軽度・中等度・重度・終末期  
 推奨文 認知症患者における義歯の衛生管理は、衛生状態の評価を適宜行い、自立支援を考慮しながら、セルフケア能力に応じて、本人から介護者に委ねても良い。  
 推奨の強さ 強く推奨

CQ#7 認知症患者において、義歯への名前入れは、義歯の紛失防止に有効か?

対象認知症レベル MCI・軽度・中等度・重度  
 推奨文 取り違えあるいは紛失の防止のために義歯への名前入れは推奨される。  
 推奨の強さ 強く推奨

CQ#8 認知症患者において、新義歯製作は、しない場合よりも摂食機能・食形態・栄養状態の維持・向上に有効か?

対象認知症レベル 軽度・中等度・重度  
 推奨文 新義歯製作が摂食機能・食形態・栄養状態の維持・向上に有効である根拠となる研究はなかった。エビデンスは乏しいが、義歯の使用に関しては、受け入れが可能な症例において、限局的に摂食機能の維持に有効である可能性がある。  
 推奨の強さ 弱く推奨

CQ#9 高齢者において、義歯装着は認知症予防に有用か?

対象認知症レベル 予防  
 推奨文 使用可能な義歯装着は認知症の予防に有用となる可能性がある。  
 推奨の強さ 強く推奨

CQ#10 認知症患者において、インプラントは認知症でない人と比べて慎重にすべきか?

対象認知症レベル MCI・軽度・中等度・重度  
 推奨文 認知症が疑われる場合、インプラント治療前に認知症の有無を十分に把握することが強く勧められ、認知症発症後あるいは軽度認知障害状態で認知症発症リスクが高い場合、インプラント治療は推奨されない。  
 推奨の強さ 強く推奨

認知症患者の義歯製作ガイドラインを公表

日本老年歯科医学会は6月25日、認知症患者の義歯診療ガイドライン2018をホームページ上で公表した。同ガイドラインは、学会が15年に提言した「認知症患者の歯科的対応および歯科診療の信頼性を高める目的」がある。歯科医療従事者だけでなく、患者や家族の意見も反映するための会議も経ており、10題のクニカルクエストを用意している。

科治療のあり方に従い、学会のガイドライン委員会が作成したもので、臨床決断を支援する推奨をエビデンスに基づいて系統的に示し、認知症患者のQOLを可能な限り維持し、補綴歯科診療の信頼性を高める目的がある。